



子どもたちが散歩を楽しむワシントン事務所近くの広場

ワシントンD.C.の保育園事情

ワシントンD.C.（通称D.C.）の中心部を歩くと、小さい子どもたちが4～6人乗りのバギーカーに乗せられ、引率の先生と散歩を楽しむ光景を目にします。ニューヨークやシカゴなど米国の他の大都市同様、D.C.には共働きの家庭が多く、このように日中子どもを預かってくれるデイケアセンター（保育園）が主要なメトロ駅周辺にいくつもあります。お行儀良く笑顔をふりまく子どもたちを見ると大変ほほ笑ましい気分になるのですが、いざ子どもを預ける段階になると親が考えねばならない事は多いです。

まず、子どもの数対比で、保育園のキャパシティが小さく、入園希望の登録をしてから入園できるまでに、数カ月から長い場合は1年程度かかります。D.C.の育児休暇期間は長くても3～4カ月であり、比較的早い段階から保育園が必要となることが影響しているのかもしれません。リーズナブルな価格の

保育園は人気が高く、中には妊娠が分かったと同時に保育園の予約に行くという方もいるようです。

また、保育料の高さにも驚かされます。仮にD.C.中心部で週5日子どもを預けた場合、月々の保育料は約2500ドル（30万円弱）にのぼり、相対的に安価な郊外の保育園や教会運営の保育園でも月々2000ドル弱かかるのが現実です。もっとも、D.C.の賃金水準が高いこと（最低賃金は時給13ドル超＜1500円弱＞）や、修士号（幼児教育学専攻）を持つ保育士もいることを考えると、保育料を高く設定しないとビジネスとして成立しないということかもしれません。

理由はさまざまですが、保育園探しに苦労するのは、日米共通の悩みといえるでしょう。

（日本銀行ワシントン事務所）

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



左手前が子ども用バギーカー